

2020年秋冬

# Intercountry

ISSJニュースレターインターカントリー第56号

日本国際社会事業団(ISSJ)の  
今をお届けします



## 当事者の声に 寄り添えるような、 養子縁組後の相談窓口を 設立しました。

ISSJには、海外在住の養子縁組当事者を中心にルーツ探しをサポートしてきた歴史があります。これまでに産みの親の近況を知りたい・会ってみたい、養子縁組前の生い立ちが知りたいなど、たくさんのご相談が寄せられてきました。

ある養子の方は、『自分が養子であること自体が不幸なのではなく、悩みを打ち明ける人がいなかったことが辛かった』と話してくださいました。もし当事者の方々が生きづらさを感じているのだとすればそれは養子であることだけが理由なのではな

く、周囲からの理解、偏見も要因のひとつになるのではないのでしょうか。そして、それは支援体制が整っていくことで少しずつ解決されることでもある、と考えています。

自身の生い立ちを追い求める時、不安な気持ちで胸がいっぱいになり誰かの手を借りたいと思う時があるかもしれません。突然自分が養子であることを告げられた時、自分にはまだ見たことのない産みの親がいると知った時、混乱が渦巻いて誰かに話を聞いてもらいたいと考えていることもあるでしょう。周りに同じ境遇の人がいなくて誰に思いを打ち明けたらよいかわからないと、心がわだかまる方もいらっしゃると思います。

このたび日本財団の助成を受け「養子縁組後の相談窓口」を設立いたしました。今年度に入り、民法改正によって特別養子縁組の年齢引き上げが行われ、さらなる制度利用が期待される養子縁組。しかし、残念なことには養子縁組成立後のサポート体制は決して十分とは言えないのが現状です。

今は、まだまだ小さな窓口です。当事者のみなさんの期待に応えるためにも、専門家の知恵をお借りしながら一歩ずつ成長していきたいと思っています。

### 窓口設立&運営に向けての活動

#### ●意見交換会

研究者や弁護士などの専門家をお招きし、意見交換会を定期的を実施していきます。第1回は9月14日に開催し、イギリスでの先進的な取り組みや制度をご紹介いただき、日本で相談窓口を展開していくにあたってどのように枠組みを設定すべきか等、ご助言をいただきました。

#### ●勉強会

イギリスのライフストーリーワーク専門家からレクチャーを受ける企画を準備中です。ルーツ探しをするにあたっては、情報開示の方法や知る権利についても学び研鑽する必要があると感じ、アーカイブズ学(資料の収集・保存に関する研究)の先生にも講義を依頼しました。

#### ●当事者の声

養子縁組当事者の方々からお話をうかがいました。相談者がどのような心情で相談窓口を利用してくださるのかにも考えを巡らせ、お気持ちを受容しながらルーツ探しのステップに進んでいきたいと改めて考えました。

養子縁組後の  
相談窓口  
ウェブサイト



[www.issj.org/post-adoption](http://www.issj.org/post-adoption)

TEL : 03-5840-5711  
Email: [postadoption@issj.org](mailto:postadoption@issj.org)

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

## Information



### ◆オンラインセミナー開催中

外国籍のシングルマザー、難民・難民申請者、無国籍状態の子どもたちが抱える、医療、教育、福祉などの生活全般の課題が複合的に絡んだ相談。外国につながる家族やその支援者からの相談は、背景事情がわかりにくいために、評価や支援が難しい事例が多くあります。在留資格など外国籍住民への相談に必要な基礎知識から、最近増えている相談事例を中心として、4回シリーズでオンラインセミナーを開催しております。外国につながる家族や子どもの課題と解決への取り組みに関心のある方のご参加をお待ちしております。

日程	内容
2020年11月14日 10:30~12:30	<b>外国にルーツのある家族と子どもへの相談支援の基礎</b> 講師：東洋大学ライフデザイン学部教授 南野奈津子氏
2020年12月12日 10:30~12:30	<b>外国籍女性の妊娠相談支援</b> 講師：認定NPO法人シェア＝国際保健協力市民の会 保健師・看護師 山本裕子氏 社会福祉士・精神保健福祉士 廣野富美子氏
2021年1月16日 10:30~12:30	<b>外国にルーツのある子どもの在留資格や国籍に関する相談支援</b> 講師：いずみ橋法律事務所 弁護士 小田川綾音氏
2021年2月13日 10:30~12:30	<b>外国籍母子の支援と養子縁組</b> 講師：とつか法律事務所 弁護士 小豆沢史絵氏

開催の詳細事項につきましては、特設ページをご覧ください。  
<https://sites.google.com/view/issj-onlineseminar202021>

## ご寄付お礼

コロナ禍を受けての緊急支援の呼びかけにたいし、温かいご寄付をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。

◆ 個人 71名

◆ 団体 株式会社アルテップ、桜東京パイロットクラブ、HarbourVest Partners (Japan) Limited **HARBOURVEST**

2020年6月～2020年11月 合計 5,464,500円

### 支援をつなぐ

ISSJの活動は、皆さまの温かいご支援によって運営されています。会費・寄付金とともに所得控除など税制上の優遇措置の対象となります。

◆ 会費(年間) 個人/5,000円 団体・法人/100,000円

◆ ご寄付 都度のご寄付 マンスリーサポーター寄付

【お問合せ】日本国際社会事業団(ISSJ)事務局 EMAIL [issj@issj.org](mailto:issj@issj.org) TEL: 03-5840-5711(平日10:00~17:00)

【編集後記】はじめて記事を執筆する機会をいただきました。平素より温かいご支援と励ましをくださるみなさまに、感謝の想いを込めてインターカントリー第56号をお届けいたします(AT)。様々な方の協力を経て、ついに発行できました。ずっと前から準備していたのに発行が遅れてしまい、超絶反省しています(MI)。油とスパイスの香りいっぱいの故郷の料理のレシピに、お腹を鳴らしながら文字を組みました(YS)。2021年も、コロナというピンチをチャンスに変えて活動・ご報告できるよう、励んでまいります(SO)。



11月14日に開催した第1回目のセミナーには、60名を超える方々にご参加いただきました。

➤ 各回のお申込・お支払はPeatixサイトから可能です。  
<https://peatix.com/group/7625039>

➤ 講座複数回分を一括お申込みの方は、[issj@issj.org](mailto:issj@issj.org)にお名前とご所属をご連絡ください。



### ◆2020年度の映画会は中止です

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、恒例のチャリティ映画会&バザーは中止になりました。2021年度の開催につきましては、改めてお知らせいたします。



### ◆お支払いがカード決済で できるようになりました

ISSJのホームページ([www.issj.org](http://www.issj.org))から、カード決済でご寄付いただけるようになりました。

トップページ⇒「あなたも一緒に」⇒「会員になる・寄付をする」  
以下のカードがご利用いただけます。



社会福祉法人 日本国際社会事業団  
International Social Service Japan (ISSJ)  
〒113-0034  
東京都文京区湯島1-10-2 御茶の水K&Kビル3F  
TEL : 03-5840-5711 FAX : 03-3868-0415  
発行日：2020年12月24日



### エビとカボチャの辛い料理



《材料》  
 エビ  
 カボチャ  
 トマト缶  
 玉ねぎ（スライス）  
 唐辛子パウダー  
 ウコン（ターメリックパウダー）  
 ガラムマサラ  
 塩、油、水 適量



- ① 頭と足をおとしたエビにウコン、ガラムマサラ、塩を加え、全体をなじませる。
- ② フライパンを温め、油を入れる。玉ねぎとウコンを加え、しっかり炒める。
- ③ ②にトマト缶を加えて混ぜ、唐辛子パウダーを加えてさらに炒めたのち①を加える
- ④ ③にカボチャを入れ炒める。水を加え、カボチャが柔らかくなるまで蓋をして煮る。

届けられた野菜が故郷の料理へと生まれ変わり、喜びの声とともに写真とレシピが送られてきました。



ごはん蒸して刻んだモロヘイヤをまぜて、野菜たっぷりのグレービーソースと一緒に食べる西アフリカの料理

野菜は協力してくれる農家さんから約50世帯に直接出荷してもらうことになりました。第一回目の発送は7月。新鮮な食材を受け取った皆さんからは続々と歓喜のメッセージが寄せられました。中には早速作ったという料理の写真を送ってくれたひとも。

### クリーンスムージーとの出会い

農業課題を解決すべく立ち上がったLIFULLのクリーンスムージー事業部は、まさに廃棄処分になる野菜や果物をスムージーパックにして届けるサービスを行っていました。今回私共の意向に賛同し、無償で食材を提供してもらえ、無償になったのです。これで、プロジェクトは実現に向けていっきに動きました。出会いとご縁に感謝です。

## 食支援からのレポート。 形は悪くても十分おいしい、規格外野菜で祖国の料理を。

「日本の野菜は味がしない」。難民・移民の方々を支援する中で、食べ物に関する声をきくことがよくあります。「食糧支援はありがたいけれど、缶詰やレトルト品はあまり食べない」などの意見も。それを聞くと日本に来る前の彼らの食生活はもつと豊かだったのだらうな、と感じます。昔の日本のような暮らしが透けて見えるようでした。ISSJには、新型コロナウイルス感染拡大が深刻化しはじめた4月上旬より、生活に困窮

### 食品ロスの問題

食品ロス（フードロス）とは、まだ食べられる食品を廃棄することです。世界の食料品廃棄量は年間13億トン、日本は2550万トン、食品ロスはその中の612万トンと言われています。この数字には規格外野菜は含まれていません。そもそも市場に出ていないからです。日本では一人当たり年間約48キロを廃棄し、毎日お茶碗一杯のごはんを捨てている計算になります。

人が貧困状態にあると言われ、これは決して外国だけの問題ではないのです。

**野菜を扱うことの難しさ**

さて、難民・移民の方々への野菜を確保するために、私たちは手はじめにフードバンクにアプローチをしました。しかし、野菜などの生鮮食料品の取り扱いには極めて少ないということがわかりました。収穫から消費までの期間が短く、長期的に保存できる加工品を取り扱っているところがほとんどでした。

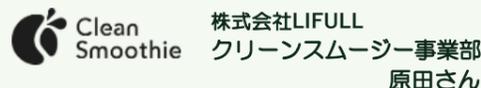
また、経済的な難しさもありました。消費者は規格外野菜を破棄するくらいなら安く売ればよいのでは、と考えがちです。けれどそうすると値崩れが生じる可能性があります。農家さんの生活を脅かさず、食品ロスの問題にも取り組みたい。さらに困窮しているからと言っていいものをあげるのではなく、喜ばれるものを届けたい。

いっこうに収束を見せないコロナ禍において、この支援は急がなければいけません。今から農家さんとの関係を構築している時間はない」、もう諦めるしかないかと思いはじめた。ちょうどその頃、ある企業が協力を申し出てくれました。

9月には収穫したばかりの生の落花生も送られたのですが、これがまた大きな反響を呼びました。落花生は彼らの母国では日常の食材でしたが、日本では生のもは入手困難で「もう食べられないと諦めていたのに、20年ぶりに食べました」という喜びの声もあがりました。このような思いがけない嬉しいエピソードもあった今回の取り組みは、難民にも、生産者にも、そして地球にも優しい結果となりました。



### 関係者からの声



今回一緒に取り組みをさせていただきました関係者の皆様に、まずはお礼申し上げます。

普段Clean Smoothieでお付き合いのある農家さんには新型コロナウイルスの流行で影響を受けている方も大変多くおられました。飲食店やホテルに送るはずだったお野菜も行き場をなくしているというお声もあり、スムージー以外にもお野菜を活かしていける方法がないかを日々模索しておりました。

そんな時ISSJさんから「難民の方々がお野菜を求めている」というお話を伺い、関係農家さんであればこだわりのつまった新鮮なお野菜を、必要とする方々にお届けできるので一緒に取組ませていただきました。結果としてお野菜をお届けした皆さんにも農家さんたちにも大変喜んでいただき、コーディネートさせていただいたことが本当に嬉しかったです。今後もスムージーだけにとどまらず、農家さんたちと共に広く農業課題の解決を行っていけるよう精進して参ります。